さいたま来（らい）ぶらり通信

Saitama Library

さいたま市

2009年
8月15日発行
第10号

美術館でおはなしをきこう！
～うらわ美術館との連携事業～

現在、うらわ美術館で開催中の「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」。その会場で、図書館の職員が絵本の読み聞かせ会をおこなっています。これは一昨年からはじまった美術館との連携事業の一環で、とくに昨年の「ぐりとぐらとなかまたち　山脇百合子絵本原画展」のおはなし会では毎回100人以上の来場者で賑わいました。今年も期待はたかまりますが、その展覧会の見どころと読み聞かせ会について、うらわ美術館の学芸員・赤木さんが文章を寄せてくれました。

＊　＊　＊

うらわ美術館では、8月30日（日）まで、「ブラティスラヴァ世界絵本原画展　―歴代グランプリ作家とその仕事」を開催しています。展覧会に関連して、絵本の読み聞かせ会やワークショップ（「絵本の世界に入ってみよう!!」）も行っています。

美術館で、「観て・聞いて・作って」過ごす夏は、いかがでしょうか？

◆ブラティスラヴァ世界絵本原画展
―歴代グランプリ作家とその仕事

ブラティスラヴァ世界絵本原画展は、2年に1度、スロヴァキア共和国の首都ブラティスラヴァで開催される、ベテラン作家による世界最大規模の絵本原画展です。

今回は、2007年に開催された第21回展のグランプリをはじめとする受賞者11名と、国内審査を経て同展に参加した日本人作家18名の作品、また特集展示として、第1回展（1967年）から第20回展（2005年）までの歴代グランプリ作家とその仕事をあわせてご紹介します。同展が日本でまとまって見られるようになったのは第17回展（1999年）からですが、今回の展覧会では、過去40年間分のグランプリ受賞作品をまとめて見ることができます。第1回グランプリの瀬川康男（日本）から、ドゥシャン・カーライ（スロヴァキア）、第20回グランプリのアリ・レザ・ゴルドゥジャン（イラン）まで、多彩な国々の豊かな個性の競演をお楽しみください。

また、約150点の原画だけではなく、実際に出版された絵本の多くも展示室に用意しています。絵本は自由に手にとっていただけますので、ごゆっくりご覧ください。

◆美術館で絵本の読み聞かせ会

おかげさまで、美術館での読み聞かせ会は今年で3年目を迎えます。対象は、幼児・小学生ですが、趣向を凝らした読み聞かせ会は毎回内容が異なり、大人も思わず聞き入ってしまうほど充実感満点！　今年はどんなおはなしを聞くことができるのでしょうか。

お父さん、お母さんに抱っこされながら、初めて美術館に来る小さな来館者もたくさんいる夏の展覧会ですが、読み聞かせ会場では一層そのことを実感します。おはなしに聞き入ったり、声を出して笑ったり泣いたり。展示室はまだちょっと難しくても、読み聞かせ会後は二コ二コして美術館を後にする・・・そんな姿が印象的です。

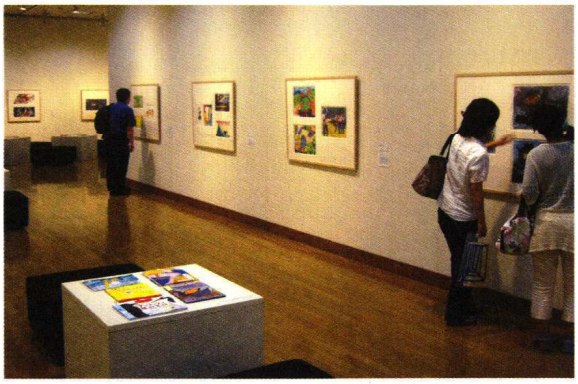
回数は限られていますが、だからこそ余計に楽しみが募る読み聞かせ会。今年もたくさんの絵本と笑顔に出会えることを心待ちにしています。

昨年の様子。つめかけた人の多さにおどろく

＊　＊　＊

普段とは異なる環境で読み聞かせをすることは、図書館の職員にとっても刺激になります。日頃から図書館のおはなし会におこしいただいているみなさんも、異なる環境でぜひ楽しんでみてください。

絵本の読み聞かせ会は8月28日（金）までの毎週火・金曜日の午後1時半から2時まで、ワークショップ「絵本の世界に入ってみよう!!」は8月30日（日）までの開館時間中（ただし火・金曜日の午後1時から2時45分までを除く）に開催。自由参加・無料なのでぜひ足をはこんでみてください。詳しくはうらわ美術館（048－827－3215）までお問い合わせください。


展覧会会場。原画とともに絵本をみることもできる

わがまち Sai 発（はっけん）

さいたま市の伝統産業

さいたま市では、「岩槻の人形」「大宮の盆栽」「浦和のうなぎ」の３つの産業を伝統産業に指定しています。図書館では、これらのテーマの本を積極的に集めています。さいたま市にしかない珍しい本を探しに、図書館に出かけてみませんか？

岩槻の人形

岩槻の人形作りの始まりは、江戸時代初期といわれています。城下町として、また日光御成道の宿場町としても栄えていた岩槻には、日光東照宮の造営のために集められた職人が留まり、その技術を生かして人形を作り始めました。また、昔から岩槻周辺は桐の産地として、たんすや下駄などの桐細工が盛んでした。この桐の粉と糊を練り固め、胡粉（ごふん）と呼ばれる貝の粉を岩槻の水で溶いて人形の顔に塗ったところ、とても発色が良いことが発見されました。

関東大震災や太平洋戦争の後には、浅草からも多くの職人が移り住みました。今でも、岩槻区内には人形に関連する店が３００軒ほどあり、全国でも日本一の生産高を誇る人形のまちとして伝統を守り続けています。

また、岩槻駅前周辺の人形店をめぐる「まちかど雛めぐり」や、毎年４月に岩槻城址公園で行われる「流し雛」、８月の「人形のまち岩槻まつり」では人が人形に仮装しての「ジャンボひな段」など、様々な行事も行われ、毎年多くの人でにぎわっています。

児童向けの本でも、日本の代表的な伝統産業として取り上げられることが多く、その伝統の技や職人の仕事が、写真入りで詳細に紹介されています。

◆こんな本があります

「日本の職人さん　6巻　人形をつくる職人さん　岩槻の人形」ポプラ社　１９９８

「岩槻人形史　埼玉百年記念」岩槻人形連合協会　１９７１

岩槻図書館の「人形資料コーナー」他にはない貴重な本もたくさんあります。

大宮の盆栽

大宮に盆栽村が誕生したのは、大正14年といわれています。江戸で流行した盆栽は、以前は多くの職人が今の台東区、文京区に集まっていました。その後、関東大震災で被災した東京の盆栽職人が、環境に恵まれた新天地を求めて集団で移り住み、次第に数を増してゆきました。現在もさいたま市の北区を中心に、多くの盆栽園が集まり活動しています。

盆栽は日本の伝統的な芸術として海外でも高い評価を受け、ＢＯＮＳＡＩという国際語にもなっています。毎年５月に開催される「大盆栽まつり」では、名品盆栽の展示や市民盆栽展、盆栽の即売会などが行われ、全国から多くの愛好家が訪れています。

◆こんな本があります

「盆栽村：大宮盆栽村開村80周年記念誌」大宮盆栽組合　２００２

「盆栽の力」加藤秀男著、家の光協会　２０００

「大宮盆栽村クロニクル」宮田一也著、アーカイブズ出版　２００８

浦和のうなぎ

浦和はもともと沼や川が多く、昔はうなぎがたくさんとれました。また、江戸時代には中山道の宿場町としてにぎわいました。その中山道を行き交う旅人たちに出して評判になったのが「浦和のうなぎ」の始まりといわれています。一説には蒲焼の発祥は浦和ともいわれています。その伝統の技と味は今日まで受け継がれ、繊細な技術と店ごとに違う秘伝のたれが、私たちの舌を楽しませてくれます。

平成14年から始まった「うなぎまつり」は、浦和の歴史や食文化を広く知ってもらうために、毎年５月に開催されています。うなぎ調理の実演、蒲焼の試食会などのほかにも、子どもたちに大人気のうなぎのつかみ取りなどで楽しく盛り上がります。

また、「浦和のうなぎ」のマスコットは、「浦和のうなぎを育てる会」のイメージキャラクターの浦和うなこちゃん。アンパンマンでおなじみの、やなせたかしさんの作で、さいたま市の観光大使にもなっています。

北浦和図書館の「うなぎの本」コーナー

「うなぎの本」を紹介するパンフレット、「読むうなぎ」も発行しています。

◆こんな本があります

「ＬＯＶＥ浦和　ふるさと浦和のいまむかし」浦和市　１９８８

浦和駅前のうなこちゃん像

※さいたま市の伝統産業については、「さいたま市伝統産業ガイドブック」（さいたま市経済局経済部商工振興課発行、２００８）、またはさいたま市のホームページでも詳しく紹介しています。

図書館も「うなぎまつり」に初参加！

北浦和図書館「うなぎまつりおはなし会」

去る５月30日（土）、今年で８回目になる「うなぎまつり」が開催されました。外でうなぎを焼くおいしそうな匂いが、市役所の中まで漂ってきます。そんな市役所ロビーを会場に、北浦和図書館による「うなぎまつりおはなし会」が開催されました。

この日のおはなし会は「うなぎまつり」に合わせた特別メニュー。ちょっと珍しい、うなぎが登場する紙芝居や人形劇を披露しました。当日はあいにくの雨天でしたが、午前と午後の２回の会に参加してくださった方は、合わせて１１０人。大盛況のうちに幕を閉じました。また、会場で展示したうなぎの本も、多くの方が手に取って見てくれました。

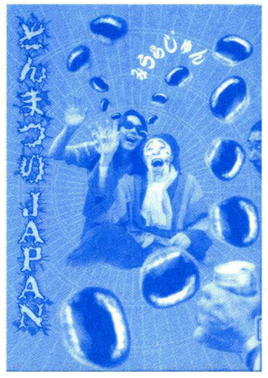
また来年も、どうぞお楽しみに。

ぶらり本棚

特集：お祭りの本

夏から秋にかけて、日本のいたるところで様々な祭りが行われています。
その規模や形はいろいろです。
提灯に灯りがともり、お神輿が通りを練り歩く、
その様は毎年繰り返される光景ですね。
お祭りに関する本を読んで、
ぜひその祭りのウンチクを語ってみてはいかがでしょうか？

とんまつりJAPAN
日本全国とんまな祭りガイド
みうらじゅん著　集英社　2000
（文庫版は2004）



奈良県吉野町ではその昔、不心得者が蛙にされたが高僧の力で人間に戻った！という話を再現するお祭り、蛙飛行事が7月に行われるそうです。その他にも和歌山県川辺町の笑い祭り、奈良県明日香村のおんだ祭り、愛知県豊川市のうじ虫祭り、北九州市小倉の尻振り祭り、佐渡島のつぶろさし…。日本全国とんまなまつりを集め、題して「とんまつり！」本当にこんな祭りってあるの？そう思わずにはいられない、パワー全開の日本の奇祭を集め、紹介します。

埼玉のまつり
埼玉ふるさとシリーズ3
財団法人　国土地理協会／編集
埼玉県県民部自治文化課　1989

本書は、埼玉県内各地の伝統ある祭り60件を掲載し、全国的に有名なもの、あるいは県民にもあまり知られていないものを、春・夏・秋・冬の季節ごとに分け、「由緒・沿革」や「見どころ」を始め「場所」等記されており、ガイドブックとしても利用できます。また巻末には、県内の主な祭りを市町村ごとに開催月日順に掲載されています。

本書によって埼玉の歴史や文化への理解をより深めることができます。

祭りの考古学
安斎正人、小野正文、黒沢浩、椙山林継、平川南著　学生社　2008

日本では、毎年1万件近くの発掘調査が行われ、多くの成果が日々蓄積されています。これらは一つとして同じものがなく、それぞれが個性的で、文献ではわからない、地域ごとの文化を雄弁に物語ってくれます。

そんな古代の日本の人々の暮らしはどうだったかを、旧石器時代の埋納、縄文の土偶、弥生の銅鐸など、祭祀からさぐるのがこの「祭りの考古学」です。

祭祀という言葉は、考古学ではとてもよく使われる言葉の一つです。祭祀を考古学でアプローチする場合は遺物（モノ）から入っていきます。とはいえ、遺跡で使われたモノが残っていても、それを使って行われた行為や演じられた内容等、一番肝心なところは、実はわからないことが多いとのこと。それほど祭りという問題を考古学的に考えていくことは難しいのですが、手を合わせる縄文時代の土偶は、祭りの素朴な姿を示していますし、古墳時代の人物埴輪は当時の葬送儀礼をリアルに伝えています。

今後も、いろいろな遺跡からさまざまな遺物が得られると思います。そうした新資料の発掘によって、改変を迫られる議論こそが考古学的にみた祭祀であり、祭りの考古学なのでしょう。

◆ほかにもこんな資料

「とっておきの里祭り」　岡村直樹著　心交社　2008
「都道府県別　祭礼行事・埼玉県」　おうふう　1996
「埼玉の民俗　年中行事」　長井五郎著　北辰図書　1963
「中学英語で日本の祭が紹介できる」　山田弘著　エール出版社　2008
「おおみや双書2　大宮のまつり」　大宮市教育委員会　1999
「さいたま市指定文化財の紹介」　さいたま市教育委員会　2005
「歴史発掘8　祭りのカネ銅鐸」　佐原真著　講談社　1996
「日本の奇祭」　合田一道著　青弓社　2006
「NHK美の壺　神輿」　日本放送出版協会　2008
「雛まつり」　福田東久著　近代映画社　2007
「鬼がゆく　江戸の華　神田祭」　木下直之、福原敏男著　平凡社2009

絵本
「きしわだのだんじりまつり」　なかむらしょうこ作、さいとうしのぶ絵　リーブル　1999
「だんじりまつり」　はまのゆか作　ポプラ社　2005
「ねぶた　ラッセラー」　北彰介作、山口晴温絵　岩崎書店　1981
「祇園祭」　新版　田島征彦作　童心社　2005
「ながさき　くんち」　太田大八作　童心社　1980
「高山祭」　山本茂実文、宮本能成絵　草土文化　1987

視聴覚資料
DVD&ビデオ「四季に咲く京都三大祭」京都新聞社　1997
DVD「日本のまつり」東北編、信越・北陸編、東海編、中国地方編、九州・沖縄編　地域伝統芸能活用センター　2005―09
CD「実用盤日本の音　2」日本コロムビア　1999
CD「秩父のまつりと神楽」埼玉県立民俗文化センター　1991
CD「夏祭りこども音頭ベスト」井出真生　日本コロムビア　2001
CD「日本全国夏祭り！　音頭＊盆踊り＊総踊り」コロムビアミュージックエンタテインメント　2007

参考文献
『なるほど！民俗学』　新谷尚紀／著　PHP研究所
『日本人が大切にしてきた大人のしきたり』　柴田謙介／著　幻冬舎
『日本の風俗起源を知る楽しみ』　樋口清之／著　大和書房
『日本の祭り』　菅田正昭／著　実業之日本社

としょかん探偵事務所

Q. なぜ大事なお神輿を担いで練り歩いたり、ゆすったりするの？

A. 神輿（みこし）は神様の乗り物ですが、もともとは貴族が乗っていた御輿で、神様が擬人化されるなかで今の神輿ができたと考えられています。

日本の神様は、どこの神社でも必ずしも静かに常在というわけではありません。祭りのときに来臨（らいりん）し、終わればまたお帰りになる、という存在なのです。しかも降りてきても、神社でじっとされているわけではなく、氏子地域を見回るのです。これを例祭（大例祭）のみゆき《御幸・神幸》といいます。

また、そのみゆき《巡行》のとき、かならず神が休憩される場所「御旅所（おたびしょ）」を設けられますが、これは担ぎ手に酒などが振舞われる休憩所となると同時に、神様はその場所で集中的にその地域の災厄を吸い上げてくださっていると考えられています。

神輿を上下左右に揺するのは、「霊振（たま）り」という、振ることによって、神様の霊力がさらに強まるという考え方によります。神様を納めた神輿を振り回しながら練り歩けば、地域全体が幸せになれるというわけなのです。

ハロー！来・ぶ・ら・り 第7回

七里（ななさと）図書館

七里図書館は見沼区の畑に囲まれたのどかな地域に、平成12年7月に開館しました。七里コミュニティセンターの中にある面積365㎡・所蔵資料約8万冊のコンパクトな図書館です。七里図書館という館名から、東武野田線の七里駅が最寄の駅と思われる方が多いのですが、七里駅からでは歩いて30～40分かかってしまいます。大宮駅または、北浦和駅からのバス便を使うと便利です。

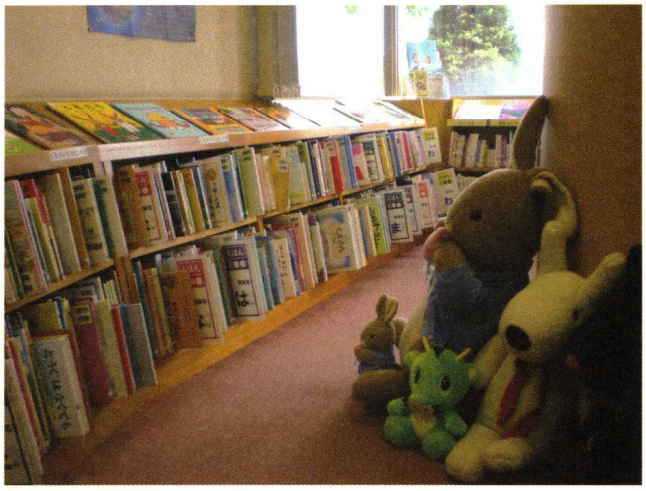
小さいながらもこどもの本が充実しています。本選びの参考にしていただくために、「おすすめコーナー」や「季節の展示コーナー」などもあります。絵本コーナーでは靴をぬいでカーペットの上でゆっくりと絵本を広げることができます。

毎月第2・4水曜日には〝おはなし会〟を開催しています。さらに今年度からは「あかちゃんおはなし会」も始まります。

館内で視聴できるDVDはこどもたちに大人気です。また、探していたDVDが七里図書館にあったということで、遠くから足を運んでくれる方もいました。

ゆったりとした時間が流れている七里図書館は、のんびり読書するには最適です。

（所在地）見沼区大谷　1210



児童書のコーナー。そとの景色を見ながら人形と一緒に。

全国生涯学習フェスティバル図書館でのイベントの紹介

毎年各県持ち回りで行われてきた全国生涯学習フェスティバルが今年は埼玉県で行われます。そのなかで、さいたま市の図書館で開催されるおもなイベントをご紹介。ぜひ足をはこんでみてください。

さいたま市主催事業

●**中央図書館**「児童文学に関する写真展示」10月30日～11月1日「本の読み聞かせ会」10月30日～11月1日「よい本を読む活動に関する展示」10月30日、31日「親子で楽しむおはなし会」11月1日

参加事業

●**岩槻図書館**「テーマ展示　芸術・スポーツを楽しもう」10月15日～11月15日

●**桜図書館**「さくらんぼのおはなし会」10月31日「朗読ライブ」11月1日

●**東浦和図書館**「緑区子どもまつり」11月1日

協賛事業

●**中央図書館**「よい本を読む運動推進員会講演会」11月19日

●**七里図書館**「夏休みこども人形劇」8月20日「児童文化講座　わらべうた」10月15日～10月30日

内容や開催時間などの詳細は各図書館にお問い合わせください。

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会　発行：さいたま市図書館

http://www.lib.city.saitama.jp/　携帯電話用 http://www.lib.city.saitama.jp/m/　（下のQRコードを読み込んでください）

北浦和図書館	832-2321	桜木図書館	649-5871	春野図書館	687-8301	与野南図書館	855-3735
南浦和図書館	862-8568	大宮西部図書館	664-4946	大宮東図書館	688-1434	岩槻図書館	757-2523
東浦和図書館	875-9977	三橋分館	625-4319	七里図書館	682-3248	岩槻駅東口図書館	758-3200
桜図書館	858-9090	北図書館	669-6111	片柳図書館	682-1222	岩槻東部図書館	756-6665
大久保東分館	853-7100	宮原図書館	662-5401	与野図書館	853-7816		
大宮図書館	643-3701	馬宮図書館	625-8831	西分館	854-8636		

事務局：中央図書館　浦和区東高砂町11-1　TEL 048-871-2100

★★編集委員より★★　来ぶらり通信は今回で10号をむかえ、紙面をリニューアル！本の紹介に力を入れていきます。より図書館に親しんでいただけるような紙面にしていきます。ご期待ください。